

弥生三月、まだまだ寒さの残る日が続きませんが、日差しには春の気配を感じることも多くなつてまいりました。

本日ここに第三十六回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、ご来賓の皆さまには公私何かとご多用にもかかわりませず、ご臨席を賜り卒業生を祝福いただきますこと、この上なく有難く、高いところからではございますが厚くお礼申し上げます。

このような晴れ場で、ただいま一八九名の卒業生、一人一人に卒業証書を渡すことができました。まことに喜ばしい限りでございます。卒業生のみなさん、ほんとうにおめでとう。

保護者の皆さま、本日はおめでとうございます。義務教育最後の三年間、愛情を注がれ、育てて

こられたお子様たちがこのように立派に成長され、ここにめでたく卒業の日を迎えられましたこと、そのお喜びは、言葉に尽くせぬものがあるろうかとお察し申し上げます。学校教職員を代表いたしまして改めまして、心よりお祝い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、墨江丘中学校での三年間、君たちは勉強に運動に励んできました。また、たくさんのお経験、楽しかったこと、苦しかったこと、うれしかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、など、多くを積んできました。手にある卒業証書は一枚ですが、その重みは皆さんにとつてはずつしりと重みのあるものではないでしょうか。今、ここに、ものごとを成し遂げ達成した満足感を皆さんは、心の底から感じていることと思います。

ただ、手元にあるその重い重い卒業証書には、皆さん一人一人の大きな努力はもちろんですが、その努力を支えてくださったご家族の方々の毎日の変わらない愛情、地域の皆様のお力添え、そして今日まで導いて来てくださった先生方の尽きぬ思いも込められていることは、しっかりと覚えておいてほしいと思います。

さらには、目には見えないけれど、一緒に歩み、励ましてくれた友だち、仲間の支えがあったことも忘れないで欲しいです。

三年間を振り返りますと、小学校から中学校へ、大人へ半歩、踏み出した入学式に始まり、先生が変わる日々の授業、定期テスト、新しい通知表、学校行事では一泊移住、体育大会、修学旅行、文化祭と、本当に小学校から中学校になって多くのできごとを皆さんは体験してきました。

私は、この一年間、みなさんを見ていて、またいつしよに過ぎして、三年生のみなさんはいくつもの感動を私に与えてくれました。

毎日の笑顔あふれるみなさんの挨拶、体育大会で見せた組体操での底力と頑張り、文化祭での大きな声、全力での合唱、修学旅行で大笑いしたスタンプ、でも、そのコントで一緒になってみんなを笑わせてくれた先生方の本当のやさしさ、そして、その先生のほんとうを知ったその時の君たちの真剣な表情など、どれ一つ忘れることはできません。すべて、先生と友達と心が一つになった瞬間を見てきました、それぞれがほんとうに感動しました。また、どのときも君たちの笑顔は最高に素晴らしかった。私にとっては、うそ偽りのないそのほんとうの笑顔は、君たちから送られた宝物そのものでした。

さて、これから皆さんが歩む、外へ目を転じますと、日本の社会も世界の動きも大変激しいものがあります。この厳しい現代社会では大人でさえ不安を持ち、将来を模索しています。そして今まさに、新しい社会の仕組みが生み出されようとしています。今まであった社会の慣例や仕組みが崩れつつあるのです。この変化は。社会のシステムが変わるなど、目に見えるものばかりではありません。

今は、一人一人の考え方にも変化を求められているのです。その大きな変革には大人は戸惑うばかりですが、君たちは未来に活躍する人たちです。この不確かな世の中にあって、大人より君たちの方がはるかに変化に適応する力に優れているはずです。そして君たちが活躍し主役になる時代がやがて来ます。その未来を夢見てほしいのです。

今は、みなさんにとっては、未来というのは、見えない地図や白地図かもしれないかもしれません。そこに自分なりのナビゲーシヨンで人生のルートを描いていくことになります。

昔も今も、船というのは港を出て、一面に広がる大海原に出ると、その航路を船長は、羅針盤（コンパスとか方位磁石ともいいますが）で東西南北を定め、また何も見えない夜はその羅針盤と星座を目安に船を進めてきました。

しかし、人生に羅針盤（方位磁石）のような装置はありません。進むべき道は自分の考えで決めて行かなければなりません。大雨や嵐にあっても進まなければならぬときもあるかもしれません。

そんなとき、人生の羅針盤となるものが、意外と近くにあることを皆さんは知っているでしょうか。

それはあなた方の周囲にいる人たちなのです。親や兄弟といった家族との会話やその言葉、自分を知る友達の励まし、その言葉、反対に自分とは異なる考えをもった友達との出会いやその考え、あるいはこれから出会うであろう新しい先生の話、それに誰かのほんの何気ない一言など。

このように、実は、気づかないうちにいろいろな人たちが君たちにアドバイスを送ってくれているのです。そして自分の進むべき道を指し示してくれているのです。

これから皆さんはさらに新しい多くの人と出会い、その人たちとも語らいを持つことでしよう。そのような周囲の人たちがあなた方を支えてくれていることを知っておけば、決して道に迷うことはありません。そういうこれから人生の道案

内となる、多くの新たな出会いを楽しみに、またぜひ大切にしてほしいと思います。

最後に、墨江丘中学校の三年生みなさんが見せてくれた行動力は、行事や多くの地域交流において高い評価を得てきました。その行動力でそれぞれの進路先で、同じようにその能力を發揮してくれることを期待しています。そして、いつかまた、一回り大きくなった君たちの明るい笑顔を学校に、ぜひ見せに来てください。

改めまして、ご来賓、地域、保護者、ならびにPTAの皆様申しあげます。平素は、本校教育推進のため、何かとご理解、ご支援を賜りまことにありがとうございます。至らないところも学校には多々あるかとは思いますが、家庭、地域、学校が連携して、この新しい時代に向けて墨江、清水丘と、素晴らしい街に相応しい特

来のあるべき学校の姿を創りだしてまいりたいと
考えております。

今日、卒業します子どもたちも地域で育つて来た子どもたちでございます。その子供たちの育成のため引き続き変わらぬご協力、ご指導いただきますようお願いいたします。その感謝とお願いをもちまして、私の式辞とさせていただきます。卒業生の皆さんに栄光のあることをお祈りいたしております。

平成二十七年三月十二日

大阪市立墨江丘中学校 校長 渡邊 雅彦